

科目名称：	障害児保育研究Ⅱ	
担当者名：	中村 明成、小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
実習ⅠⅡを通してケースカンファレンスを実施し、事例研究を深める。保育計画、保育内容、保育評価にも着目し、研究成果としてまとめる。成果発表会に向けて、自らの実践をふりかえる。		
授業の達成目標・到達目標		
ケースカンファレンスでの保育者とのミーティングで、子どもの姿を理解できているか。特に言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションを受け止め、やりとりを把握できているかどうか。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	成果発表会原稿作成	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（中村） 障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》11年10か月
	《内容2》（小西）保育士	《経験年数2》42年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
カンファレンス	自分のケースだけでなく、他のケースについてもよく考え意見を出し合える	自分のケースについて、他者の意見を参考にして話し合える	自分のケースについて話し合いを記録できる	自分のケースについての話し合いが不十分である
成果発表会原稿	カンファレンスをもとに、協力してよく原稿にまとめ、発表につなげられる	カンファレンスをもとに、原稿にまとめ、発表できる	カンファレンスをもとに、原稿を作成できる	カンファレンスの内容を、原稿に反映することが不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	1年次の「特別支援教育の理解Ⅰ」のふりかえり	40分
第2回 障害児保育を含むしょうがい児(者)福祉サービスのあらまし(復習)	1年次の「特別支援教育の理解Ⅰ」のふりかえり	30分
第3回 障害児保育を含むしょうがい児(者)福祉サービスのあらまし(復習)	「療育」についての内容の理解	30分
第4回 しょうがい児向けの方法論①(モンテッソーリなど)	しょうがい児向けの方法に関する文献を調べておく	30分
第5回 しょうがい児向けの方法論②(TEACCHなど)	しょうがい児向けの方法に関する文献を調べておく	30分
第6回 しょうがい児のための遊びの工夫と教材研究	自分でしょうがい児のための教材を考える	30分
第7回 しょうがい児のための遊びの工夫と教材研究(グループワークでペグ差しの教材を理解する)	実習での教材を振り返る	30分
第8回 しょうがい児のための遊びの工夫と教材研究(どこに興味を持ち、どういう発達につながるか理解する)	実習での教材を振り返る	30分
第9回 障害に関する法制度、発達検査法、用語についての文献調べと発表	1年次の「障害児保育Ⅰ」のふりかえり	30分
第10回 インターンシップ(現場参加)のまとめ記録作成	現場参加先の情報を理解する	30分
第11回 インターンシップ(現場参加)のまとめ記録作成	現場参加先の情報を理解する	30分
第12回 ケースカンファレンス(グループディスカッション)	現場参加の記録をまとめる	60分
第13回 ケースカンファレンス(グループディスカッション)	ケースカンファレンスの記録を補足する	40分
第14回 成果発表会とまとめ(プレゼンテーション)	ケースカンファレンスの記録を補足する	40分
第15回 成果発表会とまとめ(プレゼンテーション)	成果発表会原稿作成	60分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。</p> <p>また、事前事後学修としては、主に現場参加の記録の整理とまとめをすることになる。</p>		
成績評価の方法・基準 <p>定期試験は実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>現場参加のまとめとグループディスカッションへの積極的参加。話し合いの内容をまとめ、記録に活かすことで評価する(100%)</p>		
課題に対するフィードバック <p>グループディスカッションには、教員が参加し、各自の取り組みを評価する。</p>		
教科書・参考書 <p>適宜、資料を配布する。</p>		